

# 中国に鶏卵加工新会社設立

## 日系菓子メーカー視野に

### 太陽化学

太陽化学は、中国・天津市に香港資本と折半出資で鶏卵加工品の製造販売を行なう合併会社、太陽食品(天津)有限公司を設立することを決定した。4月5日の取締役会議で正式決定したもので、4月8日に合併の締結を行なった。これにより、同社の中国への子会社は開封・無錫に引き続き、社自となる。同社の鶏卵加工工場は5年後には単一工場として日本国内最大のものと同等の規模となる。製粉・製菓をはじめ、ミックスや菓子生産を行

なっている現地日系企業への積極的展開を皮切りに、先々は中国国内の企業にも供給を行なっていく考え。新会社は中国・天津市にある既存工場「天津文格生化工有限公司」の工場設備並びに周辺用地を買収する形で誕生した。工場設備や製造機械の改修・増設を経て、卵の生産を今年9月頃

から開始し、それ以降に加工卵製品の開始予定となっている。合併会社の資本金は日本・香港がそれぞれ50%ずつの折半で250万USドル。主に液卵や粉末卵などの鶏卵加工品の生産・現地日系企業への原料供給に注力していく意向で、5年後の生産能力は原料換算で約3万5000t、売上高は約20億円を目標としている。新工場は事業開

始後、種鶏の選定、初生雛の導入をはじめ、飼料・衛生管理を徹底し、鶏から卵まですべてをトレースできる高品質の製品生産を軸としている。すでに現地日系企業からは熱心な引き合いも来ている。

一連の表示問題、鳥インフルエンザなど、食品の安心・安全が大きな課題となっている昨今、食品の原料となる加工卵にも、トレーサビリティの確立した品質の確かなものが求められている。特に、中国で生産を行なって日本に製品を輸出している日系企業は、原材料から安心できる品質のものを、という要望が強い。太陽化学では、日本で培ってきたノウハウ、品質管理技術などを現地でも導入し、国内品と同レベルの高品質の製品を供給していく考えだ。当社は液卵・粉末卵や、常温でも保管できる濃縮卵といった製品群に注力していくが、将来的には高付加価値の加工品などの生産にも取り組んでいく。